◉茨城県鹿島新港発↓カンネコ根

アカムツはご機嫌斜めも多彩なゲストに癒される

本誌APC(東京)／椎名義徳 Yoshinori Shiina

アカムツは年間を通して狙える魚だが、初めてチャレンジするのであれば夏～晩秋にかけてがおすすめ。

普段は200メートル以上の深海に生息するアカムツだが、この時期になると産卵のために水深100～150メートルの海域に回遊してくる。

釣り場の水深が浅くなればそのぶん軽量な道具立てで狙うことができ、ビギナーでも気楽にチャレンジできるわけだ。

その浅場のアカムツ釣りの代表フィールドといえば利根川河口沖に位置するカンネコ（寒猫）根だ。

カンネコ根のアカムツ釣りは例年7月ごろよりスタートするが、今年は6月に入ったころより釣れ始め、規定数となる8尾の釣果を上げた船もあった。

6月16日、リサーチに出かけたのは茨城県鹿島新港の桜井丸。集合時間の4時に受付開始、私を含む6名の釣り人が27号船に乗り込んだ。

▲カンネコ根のアカムツはこれから本格シーズンを迎える

食わせの間が重要

4時半の出船となり、一路東南東15マイル沖のカンネコ根を目指す。

およそ1時間のクルージングでエンジンスロー。2隻の先着船に合流し、さっそく釣り開始となる。

「いいですよ、水深148メートル」のアナウンスで皆さん一斉に仕掛けを投入。ところが数秒後にはギュイーッと電動リールの巻き上げ音が船内に鳴り響く。さっそくサバの洗礼を受けてしまったようだ。

上がってきたサバは25センチ前後のリリースサイズ。しかし釣りたてのサバは特エサなので、2～3尾はキープしておきたい。

回り直しての2流し目は、「130メートル。山のてっぺんから」

カンネコ根は泥質で比較的平たんな地形だが、根という言葉が付くとおり、山状の地形の場所がいくつかあり、今現在はその山にアカムツが着いているとのことだ。

「記者さんも竿出しなよ」

船内の様子をうかがう私に船長から優しいお言葉。

アカムツ狙いでのエサはツボ抜きしたホタルイカの肝付きゲソとサバやサケ皮などの抱き合わせが一般的だが、サバの切り身の持ち合わせがないので、まずはホタルイカの先端に縫い刺しした1杯掛けで狙ってみることにする。

着底したところで糸フケを取り、竿を立てるとズボッと泥底からオモリが抜ける感触が伝わる。浅場のアカムツ釣りを実感する瞬間でもある。

そのままゆっくりと竿を立てたところでポーズ。数秒待ってアタリがこなければ、ゆっくり竿を下げ戻し、オモリが着底したところでゼロテンション。

アカムツはエサの動きが止まったところでバイトしてくることが多いので、操作後は必ず数秒アタリを待って、食わせる間を与えること。そして竿の操作もゆっくり行うことがポイントだ。

▲誘いの後に止めの間を入れることが大切

知っ得! Tips and Tricks

カンネコ根のアカムツ釣りを知り尽くした常連さんの1本バリ仕掛け

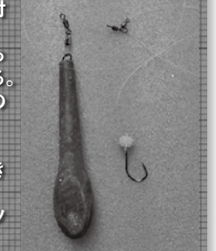
この日同乗された常連の阿部さんの仕掛けはマシュマロボールを付けただけの1本バリ仕様。

その理由について伺うと、2本バリだとせっかくアカムツが掛かっても巻き上げ途中でもう1本のハリにサバが掛かると振り落とされる。アカムツが2尾掛かることはそう多くはないから、着実にアカムツの釣果を上げるには1本バリのほうが賢明とのこと。

仕掛けアイテムを無発光のボール1個しか付けないのもサバ対策。仕掛けが底に落ちなければアカムツに巡り会えない。サバが多いときはすべて外すそうだ。

何よりもオマツリしたときの対処が簡単。昨日も乗船してアカムツを5尾（竿頭）釣り上げたという。

余裕のあるベテランが行き着いた効率重視のシンプル1本バリ仕掛け。1本バリに不安を感じる私はまだまだだと感じた次第。


▲サバ対策に重点を置くなら1本バリ仕掛け

●しいな　よしのり／「この船宿は女性一人でも安心して来られるんですよ」とは、この日単独釣行の福井さんの一言。私も初めての訪問だったが、まさに同感でした。

▲替えの枝スを多めに用意しておくといい

•Tackle Guide

道糸は3号を基準に太くても4号まで。サバが多いのでマシュマロボールは無発光タイプがおすすめ。

また、深海の魚は上から落ちてくるエサに敏感に反応するといわれているので、アタリがなければ十数メートル巻き上げて、再び仕掛けを落とし直す巻き落としも有効。

ただ、サバが多いときに巻き落とすとサバの層に仕掛けを入れるようなものになってしまうので、その辺は状況判断となる。

▲サイズ的にはもう一声ほしかった

うれし過ぎるゲスト

ゼロテン状態で待っているとゴンゴンッと明確なアタリ。乗りを確かめるように竿を立てると再びゴゴゴンッと竿がたたかれた。

「本命だっぺね」

巻き上げ途中にたたかれる竿を見て、仲乗りさんがタモを構える。

海面に上がってきたのはサイズこそ30センチ弱だが、ルビー色に輝く魚体はまぎれもないアカムツ。

うまいこと宝石の山に乗ったのか、ややおいて右舷ミヨシの阿部さんと右舷大ドモの紅一点福井さんにも25センチサイズが釣れ上がる。サイズこそもう一声ほしいところだが、まずは型を見られてひと安心だ。

私にもサバが釣れたのでさっそくエサにカット、ツボ抜きのホタルイカと抱き合わせて海底へ送り込む。

すると誘い上げからゼロテンに戻したところでゴンゴンゴンッと強烈なアタリ到来。アカムツだとしたらかなりいいサイズだが、途中の抵抗にちょっと無骨な感じがある。

タモ取りされたのは1.7キロのマゾイ。うれし過ぎるゲストだ。

その後はまったくといっていいほど潮が流れないためか、アタリのない時間ばかりが過ぎていく。

そんな状況の中、紅一点の福井さんから船中全員にオヤツの差し入れが振る舞われ、タメ息ばかりついていた男性陣が一気に奮い立つ。

仲乗りさんには小型ながらも深海のファイター、メダイがヒット。右舷胴の間の佐々木さんはオキメバル（ウスメバル）をゲット。左舷大ドモの星野さんは35センチサイズながらも希少なアラを釣り上げてみせる。

恥ずかしながら私はノドグロカサゴとアジをゲット。沖揚がり間際には特大サイズのサバも釣れて思わず興奮。

しかし、一番魅せてくれたのは福井さんで、マゾイ、2キロサイズのカンコ、そして2尾目となるアカムツまで釣り上げ、まるでジャンヌ・ダルクを彷彿させる奮闘ぶり。

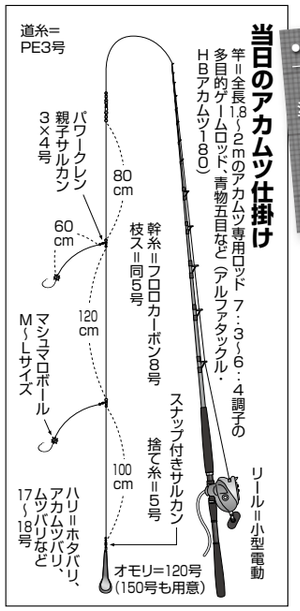
▲マゾイはうれしいゲスト

沖揚がりは11時。本命アカムツは一人0～2尾とご機嫌斜めだったが、代わってアラ、マゾイ、カンコ、メダイ、アジ、大サバなど多彩なゲスト魚に癒された一日となった。

ライトタックルで手軽に狙えるカンネコ根のアカムツ、本格シーズンはもう間近です。

▲紅一点の福井さんが大活躍

当日のアカムツ仕掛け



◉船宿information

茨城県鹿島新港
桜井丸
☎0299・94・2206
（詳細は巻末の情報欄参照）

桜井正雄船長

▶料金＝アカムツ乗合一人1万3200円（氷付き）
▶備考＝ホタルイカエサ1パック1000円。集合4時。マダイ、フグ、メヌケ、ルアー青物も受付